



# IRIS News Letter No.1

日本学術振興会 研究拠点形成事業（先端拠点形成型）  
Advanced Research Networks, JSPS Core to Core Program

## 文化的多様性の形成過程の解明を目指す 国際先住民研究拠点の構築

International Research Networks for Indigenous Studies and Cultural Diversity

### プロジェクトのスタートにあたって

この度、日本学術振興会が実施する平成30年度研究拠点形成事業（先端拠点型）に、私たちの提案した国際共同研究が採択されました。この国際共同研究では、人類社会の文化的多様性の起源を先住民研究というコンテキストから、学際的な視点で探求していきます。私たちの国際共同研究には、7カ国の研究機関が参加しており、これら海外の研究拠点との連携を通じて、国際先住民研究の拠点構築を目指します。

本プロジェクトでは、各国で開催する国際ワークショップやセミナーの他に、若手研究者の育成事業が中核的な取り組みの一つとなっています。日本からの若手研究者の海外への派遣、また海外の若手研究者の招へいと海外研究機関と連携した共同教育プログラムの構築を進める予定です。



プロジェクトコーディネーター

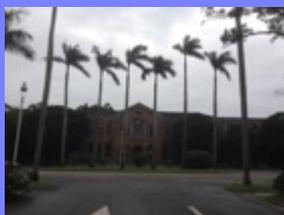
加藤 博文

北海道大学

アイヌ・先住民研究センター



## 7カ国にわたる 連携先研究機関



## 連携先研究機関

本プロジェクトでは、北米、アジア、オセアニア、欧州の7カ国の研究拠点と連携して国際共同研究を実施していきます。現在、パートナーとなっている研究機関は、以下の研究機関です。

イギリス：

拠点機関：オックスフォード大学

協力機関：アバディーン大学

スウェーデン

拠点機関：ウプサラ大学

オランダ：

拠点機関：フローニンゲン大学

協力機関：国立ライデン世界文化博物館

台湾：

拠点機関：国立台湾大学

オーストラリア：

拠点機関：オーストラリア国立大学

協力機関：オーストラリア国立博物館

カナダ：

拠点機関：サイモン・フレーザー大学

協力機関：ブリティッシュ・コロンビア大学

ロシア：

拠点機関：極東連邦大学

協力機関：ロシア科学アカデミー

## 開催されたセミナー

開催日：2018年5月7日から9日まで

開催機関：極東連邦大学

開催場所：ウラジオストック市、ロシア連邦

テーマ：PACIFIC ARCHAEOLOGY:

new horizons, problems, prospects of development.

参加者：蔦谷匠、平澤悠、加藤博文、A. Popov, A. Tabalev,

V. Zhshchikhovskaya, Yu, Nikitin, P. Hommel, A. Junno. 以下

は誌上参加のみ (C. Leipe, R. Shulting)

シンポジウムの概要報告：平澤 悠（北海道大学・博士研究員）

本シンポジウムは、環太平洋地域の多様な先史時代研究とその成果の共有を目的に2日間にわたり開催された。参加者は、広くロシア、英国、オランダ、日本に及び活発な議論が交わされた。地元ロシアの研究者からは、極東の青銅器文化であるヤンコフスカヤ文化について多角的な視点と分析方法による研究成果が発表されていたことが注目された。またロシア科学アカデミーのタバレフ氏による太平洋を越えたエクアドルでの共同発掘調査の報告からは、近年、ロシア考古学の対象とする先史時代研究領域が拡大・充実化している傾向が伺えた。オックスフォード大学のホメル氏の報告では、ロシアの青銅器時代を対象とした研究・発掘調査の課題についての発表が行われ、ロシア人考古学者との意見交換が図られた。加藤・蔦谷・ジュンノの各氏による報告は、礼文町浜中2遺跡の出土資料に基づく「ジェンダーと墓制」「同位体と食性」「リン酸分析からみる土器による調理対象」に関する発表が行われた。筆者は、新大陸初期移住集団の石器に関する発表を行った。本シンポジウムは、多様な専門性をもつ参加者により、新しい分析手法とその効果について質疑応答が活発に行われた点を成果として評価することができる。今後の環太平洋域の国際共同調査の可能性を理解する上で意義深いシンポジウムであったと言えよう。



## 開催予定のセミナー

開催日：2018年9月21日から22日（予定）

開催機関：サイモン・フレーザー大学

開催場所：バーナビー、カナダ

テーマ：先住民考古学と文化遺産（詳細未定）

\*\*\*\*\*

## 若手研究者インタビュー

### 「ランチ文化」の国際比較

蔦谷 匠（海洋研究開発機構）

「日本の研究室でのランチはどんな感じなの？」拠点形成事業の若手派遣制度で滞在していたデンマークのコペンハーゲン大学で、イタリア出身の同僚に訊かれた。私が滞在した研究室では、12時半くらいになると、メンバーがなんとなくお茶部屋に集まりはじめ、それぞれが持ってきたお弁当を広げて、おしゃべりに花を咲かせながら、1時間くらいかけてゆっくりランチをとる。くだんの同僚は、イタリアで学位をとったあとアメリカでポスドクをし、二国間の「ランチ文化」の違いに驚いたそう。イタリアではデンマークと同じく、同僚とおしゃべりを楽しみながら、ときには1時間半くらいもお昼の休憩をとるのだそう。しかしアメリカでは、ランチは個食で、個人個人が自分の仕事机で、PCのディスプレイなどと向き合いながら、掻き込むように食べていたのだという。さて、訊かれた私は過去の経験を思い出しながら、「研究室や個人のキャラクターによるかもねえ…」なんて煮え切らない、いかにもアジア的な返答をしていたのだった。

けれどこのお昼のおしゃべりというのはけっこう貴重な時間で、フォアグラ鳥の飼い方やおばあちゃんの手作り料理といったたわいもない話から、安い航空券のとり方やおすすめの文献管理ソフトといった研究に役立つ話まで、いろいろな情報を得た。それ以上に、机に向かっているとなかなか話す



海洋研究開発機構 博士研究員  
蔦谷匠さん

機会もない同僚と、くつろいでおしゃべりをする中で、お互いのことをよく知れたように思う。(もっとも、日本語の場合でも口数の少ない私は、英語の会話では輪をかけて、もっぱら聞き役にまわっていたけれど…)

この楽しいランチのように、さまざまな分野や国籍の研究者たちが、拠点形成事業を通して、闊達にコミュニケーションをとり、相互理解や共同研究をなし得ると良いなと、ひそかに思ったりしているのであった。



コペンハーゲン大学植物園

\*\*\*\*\*

## 連携研究先機関の紹介

### サイモン・フレーザー大学（通称：SFU、カナダ）

1965年に創設されたSFUは、バンクーバー、バーナビー、サーリーにキャンパスを構える総合大学である。創設時2500名ほどであった学生数は、現在3万人を数え、6,500名のスタッフが大学を支えている。2015年にはTimes Higher EducationのYoung University Rankingsで27位に選出された。同大学は、社会科学、自然科学、工学、コンピューターサイエンス、ビジネス、教育学、ヘルスサイエンス、環境学、人文学においてそれぞれ学部・大学院を設置している。SFUは国際化にも積極的で、欧州、豪州、米国、中国、香港、マレーシア、日本などの諸大学と交換留学プログラム協定を結んできた。

SFUは、先住民との連携・協働においても先進的に取り組んでいる。学内にはOffice for Aboriginal Peoplesや著名な北西海岸先住民アーティストの名を冠したThe Bill Reid Centreが設けられ、地元先住民コミュニティ、先住民出身の学生のための豊富な教育プログラム、学内外の先住民アート情報

の周知などがウェブサイトでも行われている。中でも大学という高等教育機関において重要なのは、2015年にSFU先住民運営委員会によって提示された「大学における先住民文化および研究プロトコル」、「伝統的領域の承認」に関する用語定義、「先住民の精神性」への理解促進、「研究倫理」である。大学と先住民社会が相互に尊敬しあえる形を定め、維持し、次世代へ継承する大学であるといえる。



国際先住民研究拠点事務局

〒060-0808

北海道札幌市北区北8条西6丁目

北海道大学アイヌ・先住民研究センター 加藤研究室内

TEL: 011-706-4050

<http://iris.cais.hokudai.ac.jp>

email: north@let.hokudai.ac.jp

発行人 加藤 啓子